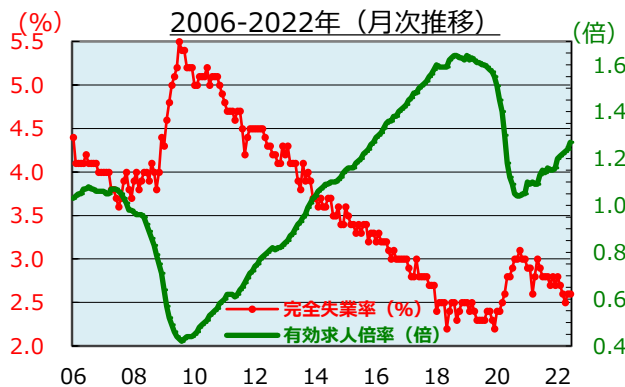


2022年7月号 最新の雇用・経済指標

2022年7月29日
株式会社パナソニックグループ 経営企画部



■ 月次雇用指標 - 2022年6月結果 ■

● 完全失業率 *7 **2.6%**【前月比 横ばい】

男性 … **2.7%** 【前月比 0.1ポイント改善】

女性 … **2.5%** 【前月比 0.1ポイント悪化】

● 年齢階級別失業率	15~24歳	25~34歳	35~44歳	45~54歳	55~64歳
男女計	4.4%	3.6%	2.3%	2.2%	2.7%
男性	5.0%	3.7%	2.3%	2.4%	2.4%
女性	3.9%	3.6%	2.1%	1.9%	3.1%

● 有効求人倍率 *13 **1.27倍**【前月比 0.03ポイント改善、前年同月比 0.14ポイント改善】

新規求人倍率 **2.24倍**【前月比 0.03ポイント悪化、前年同月比 0.14ポイント改善】

正社員の有効求人倍率^{注)} **0.99倍**【前月比 0.01ポイント改善、前年同月比 0.10ポイント改善】

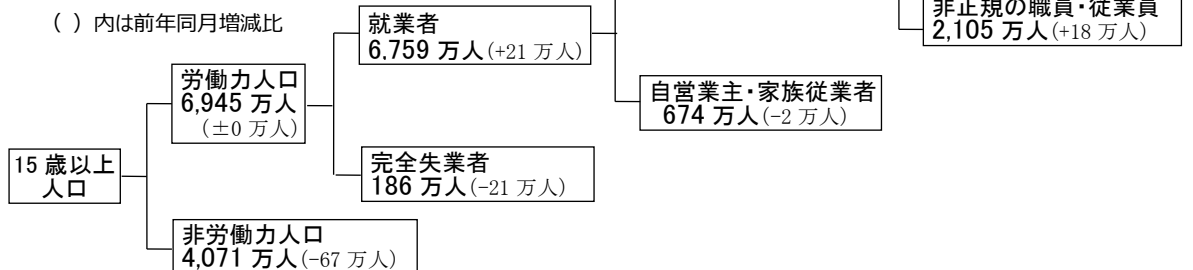
注) 「正社員の有効求人倍率」は、分母となる求職者数に派遣労働者や契約社員を希望する者も含まれるため、厳密な意味での正社員求人倍率より低くなる

■ 就業状態 《すべて実数》

★労働力人口比率 = 63.0%

★就業率 = 61.3%

() 内は前年同月増減比



うち役員を除く雇用者 5,707 万人の内訳

- 失業者数は 12 か月連続の減少。うち「自己都合」は 72 万人と前年同月に比べ 5 万人減少、「勤め先や事業の都合」は 28 万人と 11 万人減少
- 失業者のうち男性は前年同月に比べ 15 万人減の 105 万人、女性は 6 万人減の 81 万人
- 産業別の就業者数は、「医療、福祉」「情報通信業」「学術研究、専門・技術サービス業」などが増加 (以上、注意書きの無い増減の比較は全て前年同月対比)

■ 職業紹介状況 《前月比は季節調整値 *12、前年同月比は実数》…公共職業安定所（ハローワーク）における統計

● 新規求人数 【前月比 1.7%減、前年同月比12.0%増（うち正社員 9.2%増）】

● 月間有効求人数 【 " 1.7%増、 " 15.1%増（ " 11.9%増）】

● 月間有効求職者数 【 " 横ばい、 " 2.3%増】

・都道府県別の有効求人倍率（受理地別）は、最低が神奈川県と沖縄県の **0.90倍**、最高は福井県の **1.89倍**

・新規求人を産業別にみると、前年同月と比べて「宿泊業、飲食サービス業（30.9%増）」「製造業（16.9%増）」「生活関連サービス業、娯楽業（16.7%増）」「情報通信業（13.5%増）」などで増加。

★出所：総務省「労働力調査」、厚生労働省「一般職業紹介状況」（2022年7月29日公表）

政府発表の雇用指標

■ 地域別失業率 ■

<2022年4~6月期平均>

北海道	3.7%(+0.8)
東北	2.5%(-0.4)
南関東	2.8%(-0.5)
北関東・甲信	2.5%(-0.6)
北陸	2.0%(±0)
東海	2.5%(-0.1)
近畿	3.1%(-0.2)
中国	2.3%(-0.2)
四国	2.4%(-0.4)
九州	2.8%(-0.3)
沖縄	2.7%(-1.0)

※()内は前年同期比

★出所：総務省「労働力調査」

(2022年7月29日公表)

■ 雇用情勢 - 2022年1~3月期平均 ■

● 非正規の職員・従業員の割合(※)

36.7% 【前年同期比 横ばい】

男女それぞれの「役員を除く雇用者」数に占める非正規社員の割合

男性 … 22.1%【前年同期比 0.3ポイント増加】

女性 … 53.3%【前年同期比 0.2ポイント減少】

《人数は実数値》

● 雇用者数 ^{*8}	5,993万人	【前年同期比14万人減】
● 役員を除く雇用者数	5,640万人	【 " 2万人減】
└ 正規の職員・従業員	3,568万人	【 " 10万人減】
└ 非正規の職員・従業員	2,073万人	【 " 8万人増】
└ パート・アルバイト	1,455万人	【 " 7万人減】
└ 派遣社員	138万人	【 " 3万人増】
└ 契約社員	280万人	【 " 13万人増】
└ 嘱託	115万人	【 " 2万人減】
└ その他	84万人	【 " 横ばい】

派遣社員のうち男性が54万人、女性が84万人、前年同期比では男性は2%増加、女性は2%増加。

● 失業者の失業する前の雇用形態

● 失業者数	202万人
● うち過去1年間に離職した人数	66万人 <16.7%>
└ 正規の職員・従業員	34万人 <20.6%>
└ パート・アルバイト	18万人 <16.7%>
└ 派遣社員	5万人 <->

左記雇用形態別の失業者数のうち、「会社倒産・事業所閉鎖」または「人員整理・勧奨退職」による失業の割合（契約満了を除く）

失業者の仕事につけない理由は、「希望する種類・内容の仕事がない」が62万人、「求人の年齢と自分の年齢とがあわない」が21万人、「勤務時間・休日などが希望とあわない」が19万人、その他、「自分の技術や技能が求人要件に満たない」「賃金・給料が希望とあわない」「条件にこだわらないが仕事がない」などとなっている。

● 就職を希望する非労働力人口

● 非労働力人口	4,182万人	【前年同期比 2万人増】
● うち就職を希望する人数	253万人	【 " 3万人減】
└ 適当な仕事がありそうにない	87万人	【 " 9万人減】
└ 健康上の理由	59万人	【 " 7万人増】
└ 出産・育児のため	38万人	【 " 2万人減】

「適当な仕事がありそうにない」ために求職活動をしていない人の理由は、「勤務時間・賃金などが希望にあう仕事がありそうにない」「近くに仕事がありそうにない」「自分の知識・能力にあう仕事がありそうにない」「今の景気や季節では仕事がありそうにない」などとなっている。

● 転職者(※) 262万人【前年同期比 17万人減】(※) 転職者とは過去1年間に離職を経験した就業者

男性 …	117万人	【 " 14万人減】 <3.2%>
女性 …	146万人	【 " 2万人減】 <4.9%>

＜転職者比率＞
就業者に占める割合

就業者数に占める転職者の割合（転職者比率）は全体で**3.9%**となり前年同期比0.3ポイント減。年齢階級ごとの転職者数では**25~34歳**が最も多く71万人。転職者比率では**15~24歳**が8.0%で引き続き最も高い。

● 都道府県別失業率 (推計) ワースト：沖縄県 3.9%

ベスト：島根県 1.1%

前年同期比で最も改善したのは島根県の1.2ポイント減、悪化したのは神奈川県、高知県の0.5ポイント増。

★出所：総務省「労働力調査」(2022年5月13日、5月31日公表)

政府発表の雇用・経済指標

■ 大学卒業者の就職状況 - 2021 年度 ■

2022 年 4 月 1 日現在

● **大学生の就職率** **95.8%**【前年同期比 0.2 ポイント減】
(2022 年 3 月卒業者) 男子 … 94.6%【前年同期比0.4 ポイント減】
女子 … 97.1%【前年同期比0.1 ポイント減】

【参考】	就職希望率	就職率
大学	76.1%【前年同期比+0.1】	95.8%【前年同期比-0.2】
短大（女子のみ）	79.0%【前年同期比+0.3】	97.8%【前年同期比+1.5】
高専（男子のみ）	54.0%【前年同期比-6.3】	99.1%【前年同期比-0.9】
専修学校	87.0%【前年同期比-0.1】	94.7%【前年同期比+3.5】

★出所：厚生労働省（文部科学省共同調査）「令和 4 年 3 月大学等卒業予定者の就職内定状況」（2022 年 5 月 20 日公表）

■ 高校卒業者の求人・求職状況 - 2021 年度 ■

2022 年 3 月末日現在

● **高校の就職内定率** **99.2%**【前年同期比 0.1 ポイント増】

【参考】	求職者数	求人数	求人倍率	内定開始日
高校	13.5 万人【前年同期比 △8.0%】	39.0 万人【前年同期比 +0.9%】	2.89 倍【前年同期比+0.25】	2021 年 09 月 16 日以降
中学	304 人【前年同期比 △24.9%】	1,085 人【前年同期比 △5.7%】	3.57 倍【前年同期比+0.73】	2022 年 01 月 01 日以降

※学校・公共職業安定所の紹介を希望する生徒の状況をとりまとめたもの。

★出所：厚生労働省「令和 4 年 3 月高校・中学新卒者のハローワーク求人における求人・求職状況」（2022 年 5 月 20 日公表）

■ 人口推計 - 2022 年 7 月 ■

2022 年 7 月 1 日現在

● **総人口**（在留外国人を含む概算値） **1 億 2,484 万人**【前年同月比 85 万人減】
男性 … 6,067 万人【前年同月比 44 万人減】
女性 … 6,416 万人【前年同月比 41 万人減】

● **年齢階級別人口割合**

0～14 歳	11.7%		
15～64 歳	59.3%	… うち 15～24 歳	9.3%
		25～34 歳	10.2%
		35～44 歳	12.2%
		45～54 歳	15.1%
		55～64 歳	12.3%
65 歳以上	29.0%	… うち 75 歳以上	15.4% ※

※75 歳以上人口の割合の推移…1950 年 1.3% → 1991 年 5.0% → 2007 年 10.0%

【参考】2015 年の国勢調査を基にした国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口（2017 年 4 月）によれば、日本の総人口は、2053 年に 1 億人を割り込む。2065 年には現在の約 7 割にまで減少し、年齢構成の内訳も、0～14 歳の「年少人口」は 10.2%に、15～64 歳の「生産年齢人口」は 51.4%に、65 歳以上の「老年人口」は 38.4%と、大きく変動する。

★出所：総務省「人口推計月報」（2022 年 7 月 20 日公表）

■ GDP（国内総生産） ■

国内総生産（GDP^{*14}）成長率～実質

● **2022 年第 1 四半期**（1～3 月） 前期比 **0.1%減**、年率換算 **0.5%減** <2 次速報値>

- ・実質成長率のうちの寄与度でみると、国内需要（内需）が 0.3%増、財貨・サービスの純輸出（輸出－輸入）が 0.4%減
- ・米国の 1-3 月確定値は、年率換算で前期比 1.6%減（米商務省：6 月 29 日）
- ・ユーロ圏の 1-3 月期改定値は、前期比 0.3%増、前年比 5.1%増（EU 統計局：5 月 17 日）
- ・中国の 1-3 月期は前期比で 4.8%増（中国国家統計局：4 月 18 日）

★出所：内閣府「GDP（国内総生産）」（2022 年 6 月 8 日公表）、他

新しく発表された調査結果・統計データの概要

■ 令和3年 労働安全衛生調査（実態調査） ■

■メンタルヘルス対策に関する事項

- (1) メンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者又は退職した労働者の状況
過去1年間（令和2年11月1日から令和3年10月31日までの期間）にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者又は退職した労働者がいた事業所の割合は10.1% [令和2年調査9.2%] となっている。
- (2) メンタルヘルス対策への取組状況
メンタルヘルス対策に取り組んでいる事業所の割合は59.2% [令和2年調査61.4%] となっている。
- (3) ストレスチェック結果の活用状況
ストレスチェックを実施した事業所のうち、結果の集団（部、課など）ごとの分析を実施した事業所の割合は76.4% [令和2年調査78.6%] であり、その中で分析結果を活用した事業所の割合は79.9% [同79.6%] となっている。

★出所：厚生労働省「労働安全衛生調査（実態調査）」（2022年7月5日公表）

■ 平均寿命 2020年 ■

- ◆ 男 81.64歳・・・前年比で0.22歳上回った
- ◆ 女 87.74歳・・・前年比で0.30歳上回った
- ◆ 男女差は、6.11歳で前年より0.08歳拡大
- ◆ 出生者のちょうど半数が生存すると期待される年齢は男84.58歳、女90.53歳となっており、平均寿命に比べ、男は2.95歳、女は2.79歳上回っている。
- ◆ 主な国・地域別での比較^(※)では、女性は1位(2位韓国、3位シンガポール)、男性は2位（1位スイス、3位シンガポール）となり、世界でもトップクラス

(※) 国によって計算方法が異なるため厳密な比較ではない

★出所：厚生労働省「令和2年簡易生命表」（2022年7月29日公表）

■ 雇用均等基本調査－2020年度 ■

～ 男女の雇用均等問題に係る雇用管理の実態を把握することを目的とした調査 ～

女性管理職について

- 課長相当職以上の女性管理職（役員を含む）を有する企業割合は52.8%（前年度比+0.9ポイント）
- 課長相当職以上の管理職に占める女性割合は12.4%（前年度比+0.5ポイント）。これを役職別にみると、部長相当職では8.4%（同+1.5ポイント）、課長相当職では10.8%（同-0.1ポイント）であった

育児休業取得者割合

- 女性は81.6%（前年度比△1.4ポイント）
- 男性は12.65%（同+5.17ポイント） ※男性の育児休業取得割合は1996年の初回調査以来、過去最高

働きながら子の養育を行う労働者に対する援助措置

- 育児のための所定労働時間等の短縮措置等の制度がある事業所の割合は73.4%（前年度比+1.3ポイント）。各種制度の導入状況（複数回答）としては「短時間勤務制度（68.0%）」、「所定外労働の制限（64.3%）」、「始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ（39.3%）」の順で多くなっている

多様な正社員制度の導入状況

- 多様な正社員制度を導入している企業の割合は28.6%。各種制度ごとの導入状況（複数回答）をみると、「勤務地限定正社員制度」が17.0%、「短時間正社員制度」が16.3%、「職種・職務限定正社員制度」が11.0%となっている。
- 多様な正社員制度の各種制度がある事業所において、制度を利用した者の割合は、「職種・職務限定正社員制度」が10.4%、「勤務地限定正社員制度」が8.7%、「短時間正社員制度」が3.3%であった。

★出所：厚生労働省「令和2年度雇用均等基本調査」（2022年7月29日公表）

■ 2020 年度の労働者派遣事業の状況 ■

◇2020 年度中に事業年度が終了し報告書を提出した派遣元事業所の事業運営状況◇

- **年間売上高** **総額 8 兆 6, 2 0 9 億円** 【前年度比 9.6%増】
- **派遣元事業所数** **42,065 所** 【前年度比 10.6%増】
 ※派遣実績のあった事業所は 75.6% : 31,821 所
- **派遣先件数** **750,959 件** 【前年度比 7.6%増】
- **派遣料金**（全体平均、8 時間換算） **24,203 円** 【前年度比 2.4%増】（時給換算 3,025 円）
- **賃金**（全体平均、8 時間換算） **15,590 円** 【前年度比 2.3%増】（時給換算 1,949 円）

● 派遣契約期間

1 日以下	1 日超 7 日以下	7 日超 1 か月以下	1 か月超 2 か月以下	2 か月超 3 か月以下	3 か月超 6 か月以下	6 か月超 1 年以下	1 年超 3 年以下	3 年超
28.2%	3.2%	8.9%	20.5%	26.5%	9.3%	2.6%	0.7%	0.2%

● 紹介予定派遣

- ・実施事業所 **2,358 所** 【前年度比 2.9%増】
- ・職業紹介され直接雇用された労働者数 **15,333 人** 【前年度比 6.1%減】

- **登録者数** **6,853,094 人**【前年度比 10.8%増】

<2021 年 6 月 1 日現在の状況>

- **派遣労働者数**^{*18} **1,686,697 人**【前年度比 8.0%減】
 - (1) 無期雇用派遣労働者 **676,861 人**【前年度比 10.8%増】
 - (2) 有期雇用派遣労働者 **1,009,836 人**【前年度比 6.1%減】
- **製造業務に従事した派遣労働者数** **361,123 人** 【前年度比 15.9%減】
 - 全体に占める割合 : 20.0%
 - (1) 無期雇用派遣労働者 **137,334 人** 【前年度比 18.7%増】
 - (2) 有期雇用派遣労働者 **223,789 人** 【前年度比 14.2%減】
- **日雇派遣労働者数** **30,259 人** 【前年度比 23.0%増】

★出所：厚生労働省「労働者派遣事業令和 2 年度事業報告」「労働者派遣事業の令和 3 年 6 月 1 日現在の状況」（2022 年 3 月 31 日）

主な用語の解説

*1 労働力調査	全国全世帯の中から、無作為に選定した約4万世帯の15歳以上の者（約10万人）を対象として、毎月末日現在で、月末1週間における就業・不就業の状態を調査する
*2 労働力人口	15歳以上人口のうち、「就業者」と「完全失業者」の合計。 「労働力人口比率」は、15歳以上の人口に占める労働力人口の割合。
*3 就業者	「従業者」と「休業者」を合わせたもので、雇われている人（雇用者）や自営業者など、働いている人全体をあらわす。就業「率」は15歳以上人口に占める就業者の割合。
*4 従業者	調査期間中に賃金、給料、諸手当、内職収入などの収入をとともう仕事を1時間以上した者。尚、家族従業者の場合は、無給であっても仕事をしたとする。
*5 休業者	仕事をもちながら、調査期間中少しも仕事をしなかった者のうち、 1) 雇用者で、給料、賃金の支払いを受けている者又は受けることになっている者 2) 自営業主で、自分の経営する事業を持ったままその仕事を休み始めてから30日にならない者（尚、家族従業者で調査期間中に少しも仕事をしなかった者は休業者に含めず、完全失業者又は非労働力人口のいずれかとしている）
*6 完全失業者	次の3つの条件を満たす者。 1) 仕事がなく調査期間中に少しも仕事をしなかった（就業者ではない） 2) 仕事があればすぐに就くことができる 3) 調査期間中に求職活動や事業を始める準備をしていた（過去の求職活動の結果を待っている場合を含む）
*7 完全失業率	労働力人口に占める完全失業者の割合 = (完全失業者 ÷ 労働力人口) × 100
*8 雇用者	会社、団体、官公庁又は自営業主や個人の家庭に雇われて、給料・賃金を得ている者、及び会社、団体の役員。
*9 常雇（常用雇用者）	雇用者のうち、「臨時雇」、「日雇」以外の者。 1年を超える又は雇用期間に定めのない契約で雇われる者。
*10 臨時雇	1ヶ月以上1年以内の期間を定めて雇われている者。
*11 日雇	日々又は1ヶ月未満の契約で雇われている者。
*12 季節調整値	季節的要因（稼働日数の相違、正月や年度末の決算などの社会習慣、制度等の影響などによる月々の変動の癖）を除去したことを推計した数値。原数値 ÷ 季節指数 = × 100 （注意点）季節調整値は、毎年1月結果公表時に、前年12ヶ月分の結果を追加して過去にさかのぼって再計算する。
*13 有効求人倍率	公共職業安定所で扱う求職者数及び求人数のデータから、1人の求職者に対してどれだけの求人があるかを示す指標で、その月に受け付けた求人である「新規求人」と、前月から未充足のまま繰り越された求人との合計を「有効求人」という。 有効求人倍率 = 有効求人数 / 有効求職者数（倍） 1倍以上であれば労働力の需要超過、1未満であれば労働力の供給超過を示す。
*14 国内総生産 GDP (Gross Domestic Product)	国内で一定期間に生産された財・サービスの総額。 国内全体でどの程度の生産活動が行われたかを示すもので、国民総生産（GNP）とは異なる。GNPは、国の内外を問わず国内の企業、団体及び個人すべてによって生産され受け取った所得の総額を示すもので、例えば海外に進出した日本企業の生産した分が含まれる。以前はGNPが主に使われていたが、企業の海外進出や外国からの労働移入も増え、1993年から、国内生産活動実態を把握するためGDPが主流となった。
*15 フリーター	15～34歳の卒業生（女性は卒業生且つ未婚者）で、雇用者のうち「アルバイト・パート」の者、及び無業者については家事も通学もしておらず「アルバイト・パート」の仕事を希望する者。
*16 ニート（NEET）	Not in Education, Employment or Trainingの頭文字をとった略称で、「学校に通っておらず、働いてもおらず、職業訓練を行っていない若者」として英国政府が使ったのが語源。 日本では15～34歳の非労働力人口のうち家事も通学もしていない「若者無業者」を指す。
*17 労働者派遣事業	2015年9月30日より、従来の「一般労働者派遣事業（許可制）」、「特定労働者派遣事業（届出制）」の区分が廃止となり、許可制の「労働者派遣事業」に一本化されている。
*18 派遣労働者数	労働者派遣事業での「無期雇用派遣労働者」と「有期雇用派遣労働者」に、（旧）特定労働者派遣事業での「無期雇用派遣労働者」と「有期雇用派遣労働者」を合計した人数の合計。